

桜美林学園 100 年史刊行にあたって



このたび、桜美林学園 100 年史の第 1 巻目となる『図録編』を刊行する運びとなりました。

桜美林学園の創立者 清水安三が中国北京市に崇貞工読学校（後に、崇貞学園と改称）を開設した 1921 年から数えて、2021 年が 100 年目にあたります。その後、崇貞学園が中国政府によって接收され、1946 年に安三（当時 55 歳）・郁子夫妻が中国から故国日本へ引き揚げて来て、同年 5 月に、町田市常盤町（当時、東京都南多摩郡忠生村）の地に桜美林学園を創立しました。桜美林学園と崇貞学園を前身とする北京市の陳経綸中学共々、一途に発展を遂げて評価を得てまいりました。

創立 101 年目となるこの年に、『100 年史』の刊行が開始される意義は極めて大きなものであり、本学園にとってこの上ない喜びです。この時期での刊行は遅きに失した感がありますが、この記念すべき節目となる年に創立者の教育活動及び桜美林学園が今日まで歩んできたその歴史を精査し、整理してみる作業は、未来を見据えて本学園が今後進むべき方針を定める上で、重要な意義を持つ企画であると考えております。本学園は、一朝一夕に創られた訳ではありませんので、創立者の思いを深く知ること、現在に至るまでの学園の歴史について正しい理解を持つということは、独自の建学の精神を掲げている私立学校においては極めて大切なことだと考えます。

『図録編』としての本書には、創立者 清水安三個人の活動の足跡を辿る写真や文書類、清水を支えた多くの人々の献身振りを伝える写真、桜美林学園の創立当時から現在までの発展の史実を物語る写真や図版などが掲載されています。

本学園では、学園の歴史を末代まで正確に伝えるためのアーカイブズの構築を目指しています。現在、その一環として『学園史研究』（創刊号、2021 年）の発行、清水安三の著作物の校閲作業の一環として『朝陽門外』（桜美林大学叢書、2021 年）の出版など、関係者の協力を得ながら、資料の整備を進め、より精度が高い学園史を制作するための作業を進めることを予定しています。

今後、桜美林学園 100 年史は、学園史編さん室によって数年間を掛けて第 3 巻構成での刊行が計画されています。刊行にあたって貴重な写真や資料をご提供くださった方々、編さんにご協力いただいた皆様に対し、心から感謝申し上げます。

2022 年 3 月

桜美林学園理事長 小池 一夫